

# 2016年度第1四半期決算説明資料

2016年8月10日

損保ジャパン日本興亜ホールディングス株式会社



# 目次

業績ハイライト(2016年度第1四半期)	2	2-2. 国内生保事業	
<b>1. 業績動向</b>		業績概況(ひまわり生命)	25
2016年度第1四半期決算概況(連結)	4	会計利益の推移	26
決算のポイント①保険引受利益(損保ジャパン日本興亜)	5	修正利益・修正純資産(国内生保事業)	27
決算のポイント②連結経常利益	6	(参考)保有契約件数	28
決算のポイント③連結純利益	7	<b>2-3. 海外保険事業</b>	
(参考)2016年度通期業績予想概況(連結)	8	業績概況(収入保険料、当期純利益)	29
(参考)2016年度通期業績予想のポイント	9	地域別業績	30
(参考)通期業績予想(連結経常利益)のブレイクダウン	10	(参考)グループ会社別業績	31
(参考)経営数値目標等	11	<b>2-4. 介護・ヘルスケア事業等</b>	
<b>2. 事業別概況</b>		業績概況(介護・ヘルスケア事業等)	32
<b>2-1. 国内損保事業</b>		<b>3. ERM・資産運用</b>	
2016年度第1四半期決算概況(損保ジャパン日本興亜)	13	財務健全性(内部ソルベンシー比率)	34
正味収入保険料	14	(参考)実質自己資本・リスク量のブレイクダウン	35
正味損害率(リトン・ペイド)	15	(参考)市場変動に対する感応度	36
正味事業費率	16	資産ポートフォリオ(グループベース)	37
コンバインド・レシオ	17	資産ポートフォリオ(損保ジャパン日本興亜)	38
資産運用損益	18	資産ポートフォリオ(ひまわり生命)	39
(参考)資産運用粗利益の内訳	19		
(参考)2016年度通期業績予想(損保ジャパン日本興亜)	20		
(参考)通期業績予想の前提(損保ジャパン日本興亜)	21		
(参考)自動車保険関連の指標	22		
(参考)国内自然災害	23		
(参考)責任準備金・支払備金	24		

- 第1四半期の連結経常利益は313億円(△61億円)、連結純利益は199億円(△65億円)
- 通期業績予想対比の進捗率(連結純利益)が遅く見えるものの、実態は概ね計画どおり

- 金融市場に変動があったものの、強固な財務基盤を維持
- 政策株式のエクスポージャー削減額は399億円(うち現物26億円、先物ヘッジ372億円)
- 5月公表の自社株取得(上限335億円)については、7月末までに223億円を市場で取得
- 損保ジャパン日本興亜のコンバインド・レシオ(除く自賠責・家計地震)は89.8%と90%前後の水準
- ひまわり生命の保有契約件数・保険料等収入は保障性商品中心に拡大、当期純利益は  
通期業績予想対比で順調な進捗
- 海外グループ会社業績に大きな変動はなく、通期業績予想対比で堅調に推移

# 1. 業績動向

## 2. 事業別概況

---

2-1. 国内損保事業

2-2. 国内生保事業

2-3. 海外保険事業

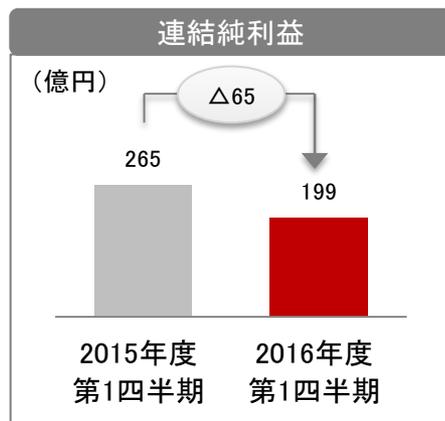
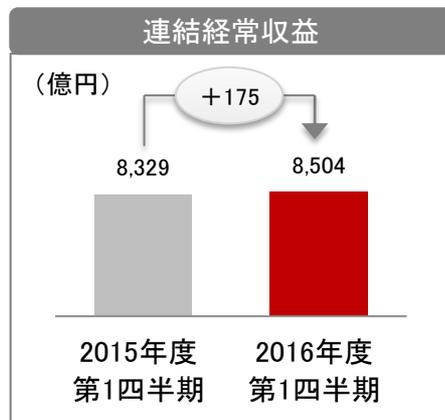
2-4. 介護・ヘルスケア事業等

---

## 3. ERM・資産運用

## 2016年度第1四半期決算概況(連結)

◆ トップラインは拡大、連結経常利益は313億円(△61億円)、連結純利益は199億円(△65億円)



(単位:億円)	2015年度 第1四半期	2016年度 第1四半期	増減
連結経常収益	8,329	8,504	+175 (+2.1%)
正味収入保険料	6,526	6,547	+21 (+0.3%)
生命保険料	675	729	+53 (+7.9%)
連結経常利益	374	313	△61
損保ジャパン日本興亜	278	293	+14
ひまわり生命	52	31	△20
海外グループ会社	60	47	△12
その他・連結調整※1	△16	△59	△43
連結純利益※2	265	199	△65
損保ジャパン日本興亜	193	200	+7
ひまわり生命	35	20	△15
海外グループ会社	53	43	△9
その他・連結調整※1	△16	△65	△48
(参考)修正利益(事業別)	460	377	△83
国内損保事業	329	272	△56
国内生保事業	75	64	△11
海外保険事業	52	44	△8
介護・ヘルスケア事業等	3	△3	△6

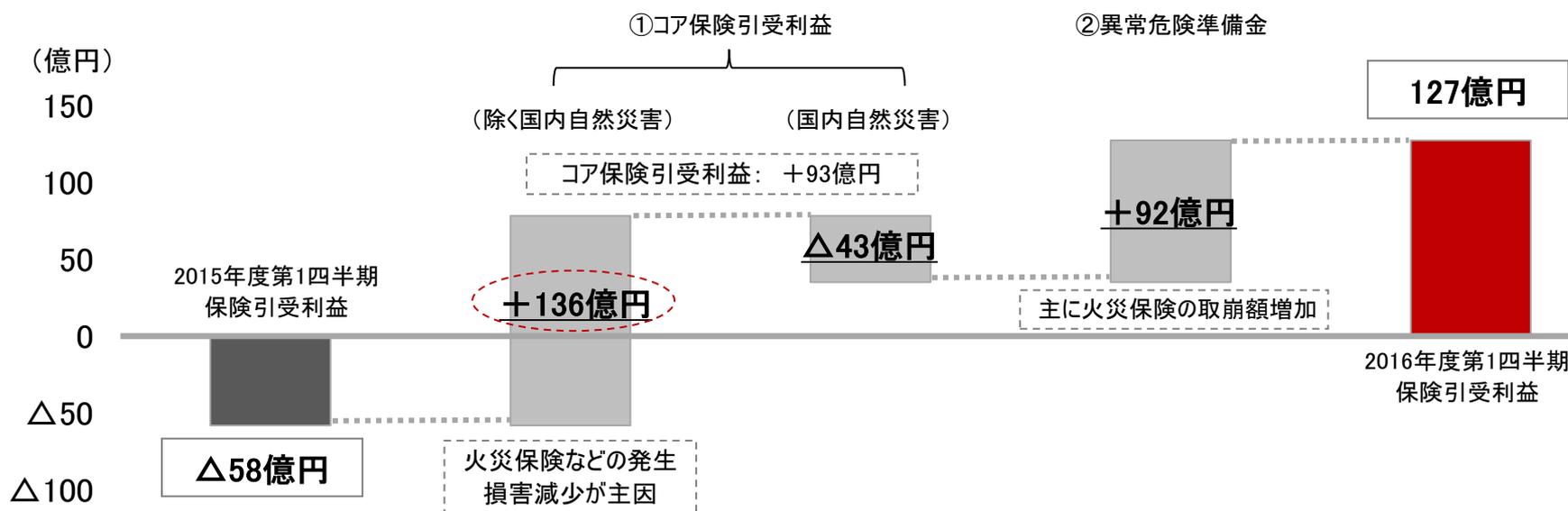
※1 損保ジャパン日本興亜ホールディングスの設立にあたり、企業結合の会計処理として「パーチェス法」を適用している。  
HD連結では、旧日本興亜損保等の資産・負債を経営統合時の時価で取得し、これを簿価としている(損保ジャパン日本興亜等の単体上の認識簿価とHD連結上の認識簿価が相違)。したがって、損保ジャパン日本興亜の売却損益等を修正する必要があり、この修正を上記「連結調整」に含めている。

※2 連結純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を指す(以下同様)

# 決算のポイント①保険引受利益(損保ジャパン日本興亜)

◆ コア保険引受利益(除く国内自然災害)の拡大などにより、保険引受利益は+185億円増益の127億円

## 保険引受利益(損保ジャパン日本興亜)の増減要因



	①コア保険引受利益	②異常危険準備金
2015年度第1四半期実績	194億円	△252億円
2016年度第1四半期実績	287億円	△159億円

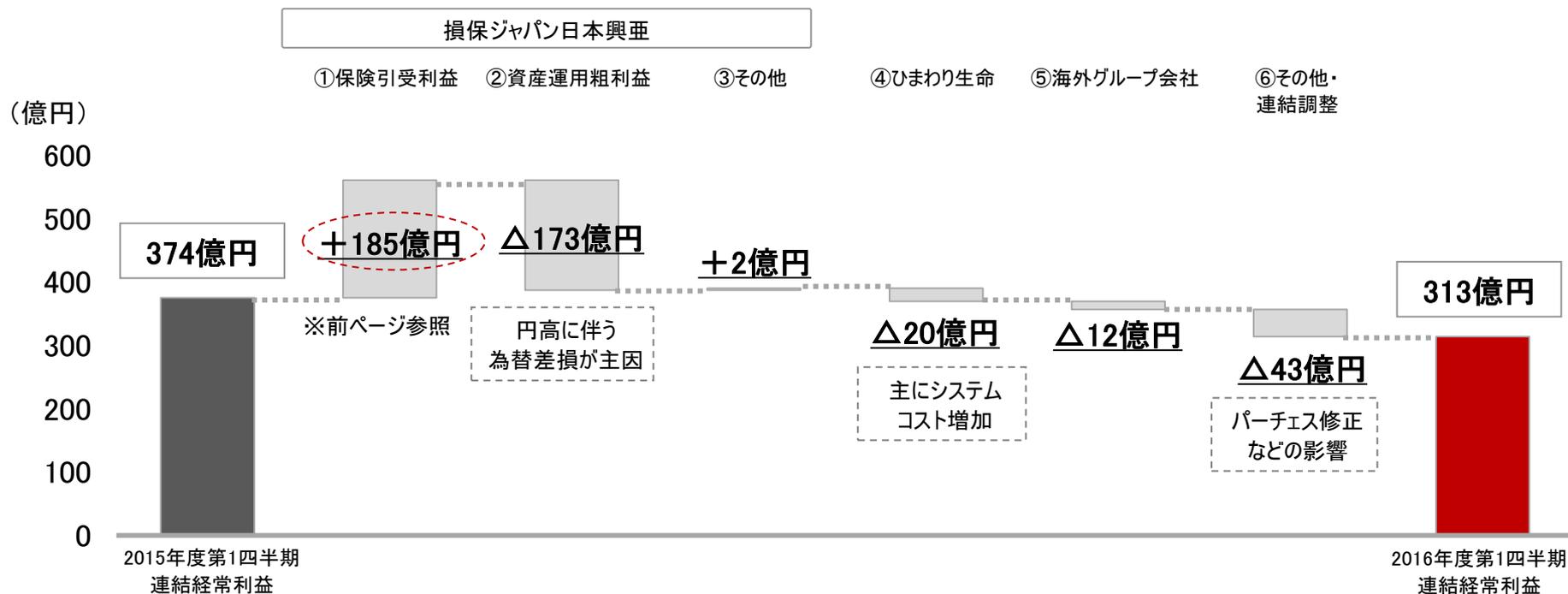
※ コア保険引受利益は、保険引受利益から異常危険準備金に係る影響を除いたもの

※ 国内自然災害の数値は、当年度発生した国内自然災害に係る正味支払保険金の増減影響

# 決算のポイント②連結経常利益

◆ 保険引受利益の拡大を円高に伴う為替差損の影響などが相殺し、連結経常利益は313億円

## 連結経常利益の増減要因

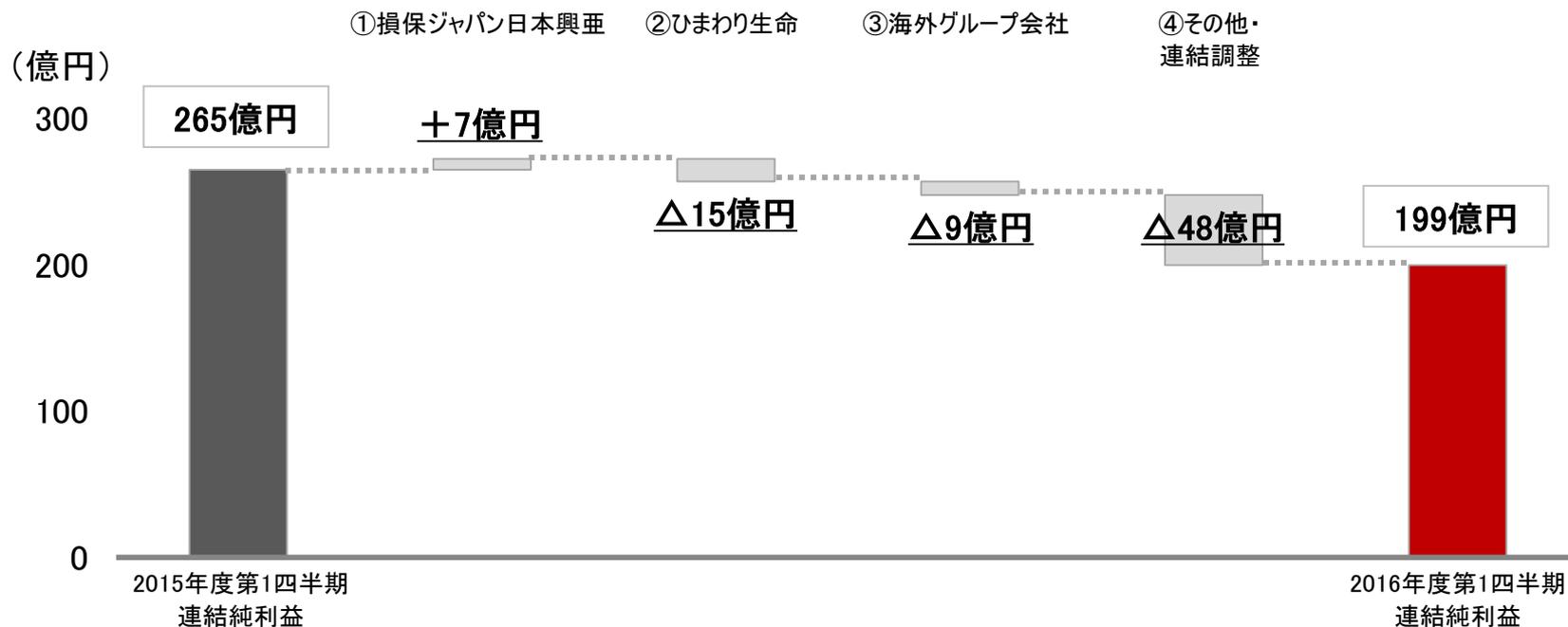


	①保険引受利益	②資産運用粗利益	③その他	④ひまわり生命	⑤海外グループ会社	⑥その他・連結調整
2015年度第1四半期実績	△58億円	381億円	△44億円	52億円	60億円	△16億円
2016年度第1四半期実績	127億円	207億円	△41億円	31億円	47億円	△59億円

# 決算のポイント③連結純利益

◆ 連結純利益は199億円、通期業績予想対比の進捗は概ね想定どおり

## 連結純利益の増減要因



	①損保ジャパン 日本興亜	②ひまわり生命	③海外グループ会社	④その他・ 連結調整
2015年度第1四半期実績	193億円	35億円	53億円	△16億円
2016年度第1四半期実績	200億円	20億円	43億円	△65億円

## (参考)2016年度通期業績予想概況(連結)

◆ 連結経常利益は108億円減益の2,060億円、連結純利益は1,400億円を見込む

(単位: 億円)	2015年度 (実績)	2016年度 (予想)	増減	
正味収入保険料	25,521	25,730	+208	(+0.8%)
生命保険料	2,976	3,070	+93	(+3.1%)
連結経常利益	2,168	2,060	△108	(△5.0%)
損保ジャパン日本興亜	1,780	1,965	+184	(+10.3%)
ひまわり生命	182	105	△77	(△42.2%)
海外グループ会社	237	180	△57	(△24.1%)
その他・連結調整※	△32	△190	△158	(-)
連結純利益	1,595	1,400	△195	(△12.3%)
損保ジャパン日本興亜	1,262	1,400	+137	(+10.9%)
ひまわり生命	116	65	△51	(△44.0%)
海外グループ会社	205	142	△62	(△30.6%)
その他・連結調整※	11	△207	△218	(△1,907.9%)

※ 損保ジャパン日本興亜ホールディングスの設立にあたり、企業結合の会計処理として「パーチェス法」を適用している。

HD連結では、旧日本興亜損保等の資産・負債を経営統合時の時価で取得し、これを簿価としている(損保ジャパン日本興亜等の単体上の認識簿価とHD連結上の認識簿価が相違)。したがって、損保ジャパン日本興亜の売却損益等を修正する必要があるため、この修正を上記「連結調整」に含めている。

# (参考) 2016年度通期業績予想のポイント

◆ 将来の成長や業務効率化の実現に向けた先行投資などにより連結経常利益はほぼ横ばいを見込む

## 国内損保事業 (損保ジャパン日本興亜)

- 経常利益は保険引受利益および資産運用粗利益の改善により+184億円増益
- コンバインド・レシオ(除く自賠責・家計地震)は1.1ポイント改善の93.4%を見込む
  - 損害率が1.8ポイント改善、事業費率は約120億円の先行投資などを含め0.7ポイント上昇の見込み
- 政策株式の削減は1,000億円規模を計画

## 国内生保事業

- ビジネスは順調に拡大する計画、経常利益は先行投資を主因に△77億円の減益
  - さらなる成長への先行投資は約50億円の想定、会計基準変更に伴いシステムコストが約25億円増加

## 海外保険事業

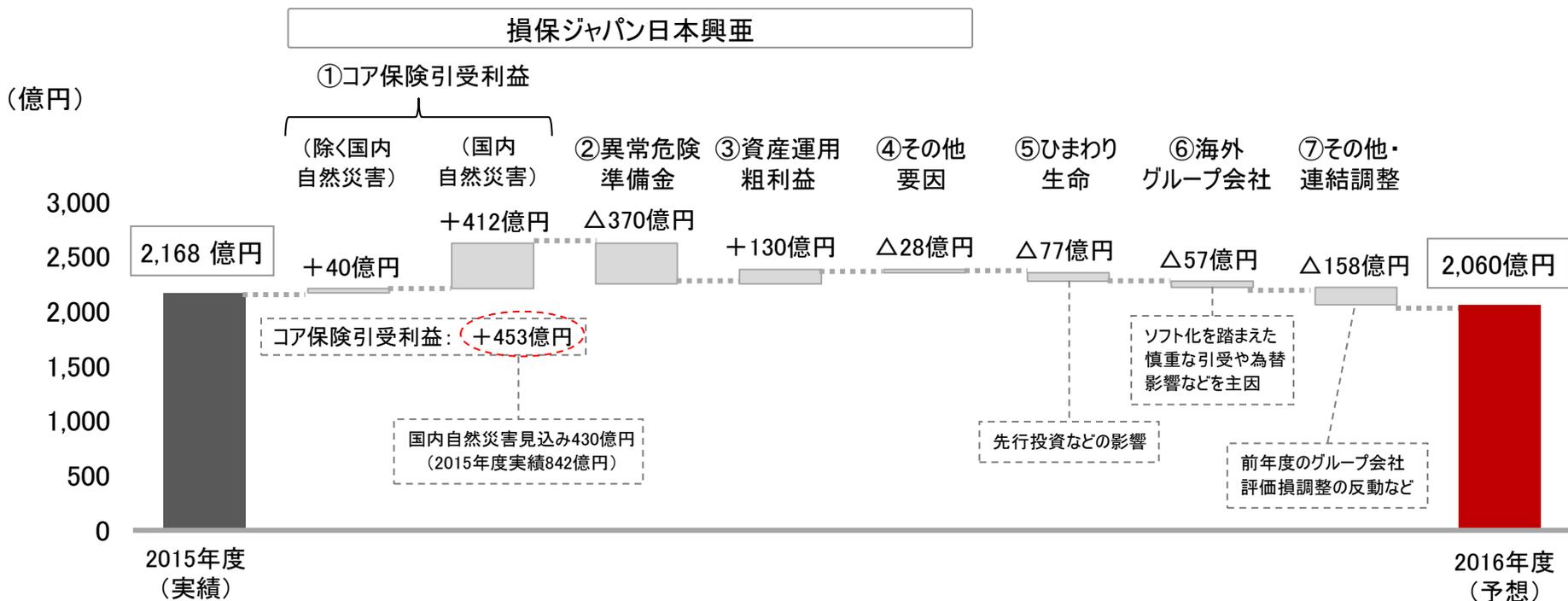
- ソフト化を踏まえた慎重な引受や為替影響などにより、経常利益は△57億円の減益
  - 前年度の一時的要因(SJアメリカでの株式売却益17億円)が抜けたことなども要因

## その他

- 前年度にグループ会社評価損を連結ベースで修正(+173億円)したことなどの反動減あり

## (参考) 通期業績予想(連結経常利益)のブレークダウン

## 連結経常利益の主要構成要素



※ コア保険引受利益は、保険引受利益から異常危険準備金に係る影響を除いたもの

## (参考) 経営数値目標等

## 計画数値

(単位: 億円)	2015年度	2016年度		2018年度
	(実績)	(1Q実績)	(予想)	(計画)
国内損保事業※1	1,119	272	1,206	1,170以上
国内生保事業	304	64	230	320以上
介護・ヘルスケア事業等	15	△3	8	80以上
海外保険事業	204	44	150	230以上
<b>合計(修正連結利益)</b>	<b>1,643</b>	<b>377</b>	<b>1,600</b>	<b>1,800~2,200</b>
<b>修正連結ROE※2</b>	<b>6.9%</b>	<b>-</b>	<b>6.8%</b>	<b>8%以上</b>
(参考) ROE(J-GAAPベース)	9.2%	-	8.4%	約10%に相当

## 修正連結利益の定義

## 国内損保事業

当期純利益  
 + 異常危険準備金繰入額(税引後)  
 + 価格変動準備金繰入額(税引後)  
 - 有価証券の売却損益・評価損(税引後)  
 - 特殊要因(子会社配当など)

## 国内生保事業

当期純利益  
 + 危険準備金繰入額(税引後)  
 + 価格変動準備金繰入額(税引後)  
 + 責任準備金補正(税引後)  
 + 新契約費繰延(税引後)  
 - 新契約費償却(税引後)

## 介護・ヘルスケア事業等

当期純利益

## 海外保険事業

当期純利益(主な非連結子会社含む)

※1 国内損保事業は損保ジャパン日本興亜、セゾン自動車火災、そんぽ24、損保ジャパン日本興亜保険サービス、DC証券の合計

※2 修正連結ROE=修正連結利益÷修正連結純資産(分母は、期首・期末の平均残高)

修正連結純資産=連結純資産(除く国内生保事業純資産)+国内損保事業異常危険準備金(税引後)+国内損保事業価格変動準備金(税引後)+国内生保事業修正純資産  
 国内生保事業修正純資産=国内生保事業純資産(J-GAAP)+危険準備金(税引後)+価格変動準備金(税引後)+責任準備金補正(税引後)+未償却新契約費(税引後)

---

## 1. 業績動向

## 2. 事業別概況

2-1. 国内損保事業

2-2. 国内生保事業

2-3. 海外保険事業

2-4. 介護・ヘルスケア事業等

---

## 3. ERM・資産運用

## 2016年度第1四半期決算概況(損保ジャパン日本興亜)

## ◆ 第1四半期の保険引受利益が黒字化、当期純利益は200億円(+7億円増益)

(単位:億円)	2015年度 第1四半期	2016年度 第1四半期	増減	
正味収入保険料	5,627	5,498	△129(△2.3%)	
除く自賠償・家計地震	4,899	4,818	△80(△1.6%)	
正味損害率	58.6%	60.2%	+1.7pt	
除く自賠償・家計地震	55.0%	55.9%	+0.9pt	
正味事業費率	31.6%	32.6%	+1.0pt	
除く自賠償・家計地震	33.0%	33.8%	+0.9pt	
コンバインド・レシオ	90.2%	92.8%	+2.6pt	
除く自賠償・家計地震	88.0%	89.8%	+1.8pt	
保険引受利益	△58	127	+185	→ 火災保険の増益が主因
資産運用粗利益	381	207	△173	→ 円高に伴う為替差損の影響が主因
経常利益	278	293	+14	
当期純利益	193	200	+7	
(参考)				
修正利益				
+) 異常危険準備金繰入額(税引後)	179	114	△64	
+) 価格変動準備金繰入額(税引後)	14	14	△0	
-) 有価証券売却損益・評価損(税引後)	50	29	△21	
-) 特殊要因(税引後)※	△0	19	+19	
修正利益	336	280	△56	

※ 特殊要因は株式先物関連損益等

# 正味収入保険料

◆ 火災保険の長期契約駆け込み需要の反動などにより減収となるも、主力の自動車保険は増収

## 種目別正味収入保険料

(単位: 億円)	2015年度 第1四半期	2016年度 第1四半期	増減	2016年度 (予想)
火災	697	614	△82 (△11.8%)	2,997
海上	127	103	△24 (△18.9%)	517
傷害	546	534	△11 (△2.1%)	1,852
自動車	2,714	2,743	+28 (+1.1%)	10,716
自賠責	726	676	△49 (△6.8%)	3,021
その他	815	824	+8 (+1.1%)	2,789
うち賠償責任	499	494	△4 (△1.0%)	1,534
合計	5,627	5,498	△129 (△2.3%)	21,893
合計(除く自賠責・家計地震)	4,899	4,818	△80 (△1.6%)	18,862

(参考) 自動車保険の台数・単価・保険料  
対前年同期比(2016年4月～2016年6月)

	損保ジャパン日本興亜		
	台数	単価	保険料
ノンフリート	△0.3%	+1.2%	+0.9%
フリート	△0.8%	+0.4%	△0.4%
合計	△0.4%	+1.1%	+0.7%

※営業成績保険料ベース

(主な増減要因)

火 災: 2015年10月商品改定(10年超の長期契約の廃止、料率改定)による駆け込み需要の反動などの影響

海 上: 円高や貿易量減少などが主因

自動車: 商品・料率改定効果およびその他の単価アップ施策により増収

# 正味損害率(リトン・ペイド)

◆ 自動車保険の収支改善が継続、また、E/I損害率は全種目改善(△3.5ポイント)

## 種目別正味損害率

2016年度第1四半期

(単位:億円)

	保険金	増減	損害率	増減
火災	472	+29	78.7%	+13.6pt ※
海上	65	+6	66.9%	+17.3pt ※
傷害	240	△6	48.1%	△0.7pt
自動車	1,321	△47	55.9%	△2.1pt
自賠責	564	+15	91.1%	+8.4pt
その他	325	+15	42.7%	+1.4pt
うち賠償責任	176	△6	38.7%	△1.0pt
合計	2,989	+12	60.2%	+1.7pt
合計(除く自賠責・家計地震)	2,425	△2	55.9%	+0.9pt
合計(除く自賠責・家計地震・国内自然災害)	2,295	△36	53.2%	+0.2pt

(参考)E/I損害率

2016年度第1四半期

	E/I損害率	増減
火災(除く家計地震)	47.1%	△11.1pt
海上	59.2%	△10.8pt
傷害	59.4%	△2.4pt
自動車	61.3%	△0.7pt
その他	55.8%	△5.6pt
合計(除く自賠責・家計地震)	58.0%	△3.5pt

※ 火災保険および海上保険の正味損害率上昇は、正味収入保険料減少(前ページ参照)に加え、火災保険では国内自然災害の正味支払保険金増加も影響

# 正味事業費率

◆ 先行投資を除いたベースの事業費率は32.9% (△0.1ポイント)と適切にコントロール

## 正味事業費率

2016年度第1四半期

(単位:億円)	金額	増減	事業費率	増減
諸手数料及び集金費	995	△29	18.1%	△0.1pt
営業費及び一般管理費※	795	+40	14.5%	+1.1pt
合計	1,790	+11	32.6%	+1.0pt
合計(除く自賠責・家計地震)	1,630	+15	33.8%	+0.9pt
合計(除く自賠責・家計地震・先行投資)	1,585	△29	32.9%	△0.1pt

→ 社費率

2016年度第1四半期				
(単位:億円)	金額	増減	社費率	増減
人件費	347	+9	6.3%	+0.3pt
物件費	394	+29	7.2%	+0.7pt
税金等	53	+1	1.0%	+0.0pt
合計	795	+40	14.5%	+1.1pt
合計(除く先行投資)	750	△4	13.6%	+0.2pt

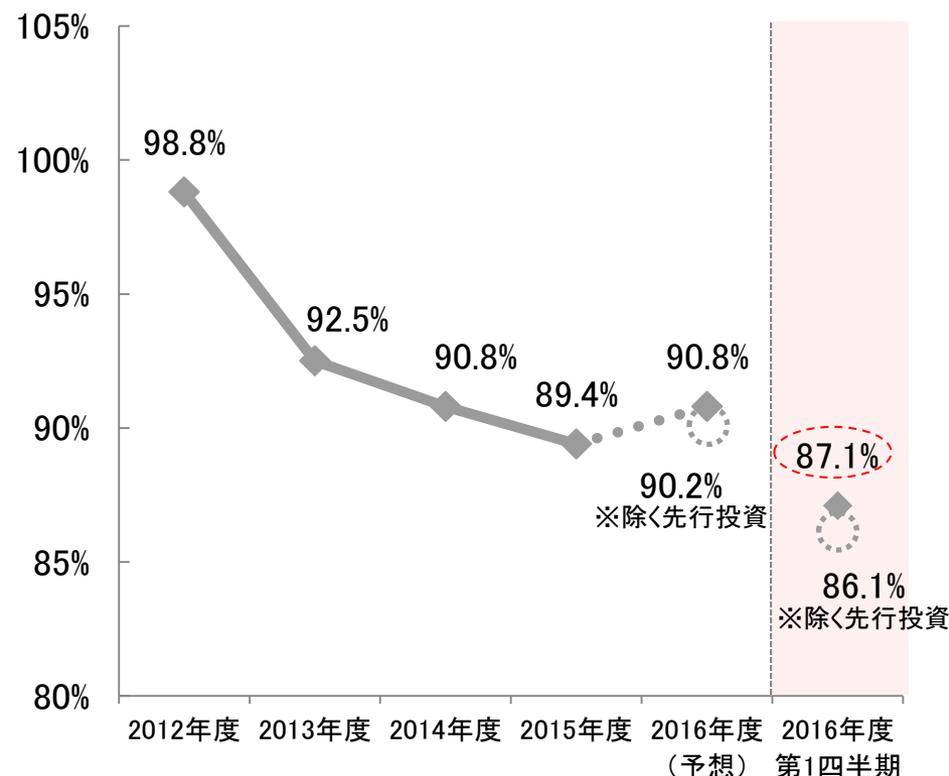
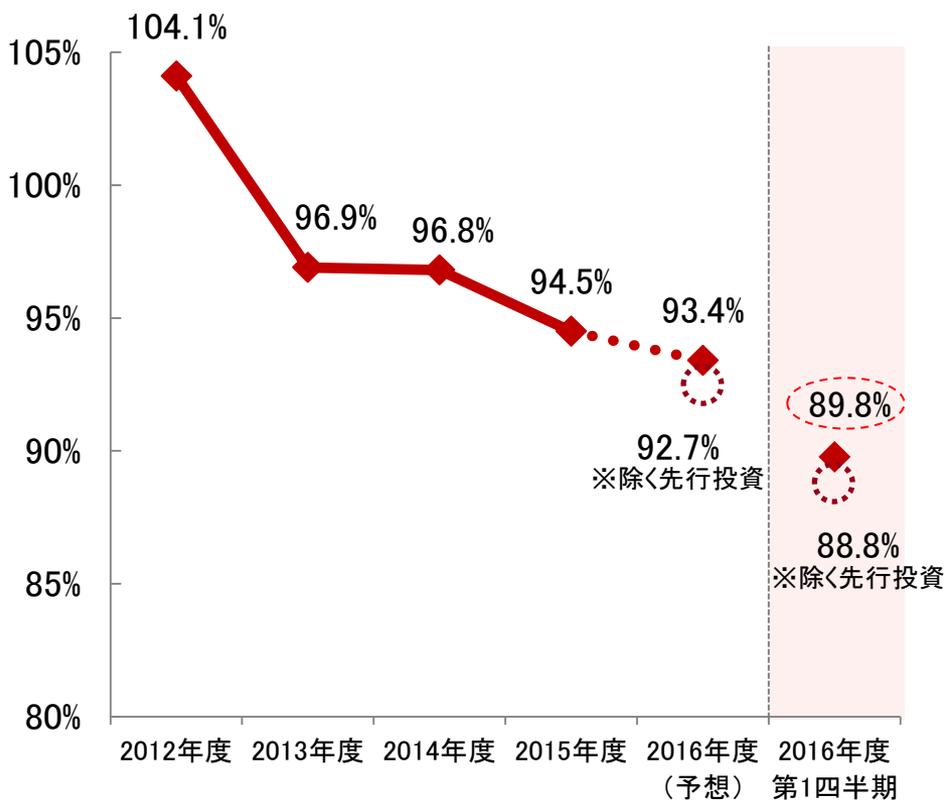
※ 保険引受に係るもの(社費)、うち先行投資は44億円

# コンバインド・レシオ

◆ コンバインド・レシオは89.8%と2016年度通期業績予想を下回る水準で推移

コンバインド・レシオ(除く自賠責・家計地震)

<参考> 除く自賠責・家計地震・自然災害



# 資産運用損益

◆ ネット利息及び配当金収入の進捗は順調、円高に伴う為替差損を認識

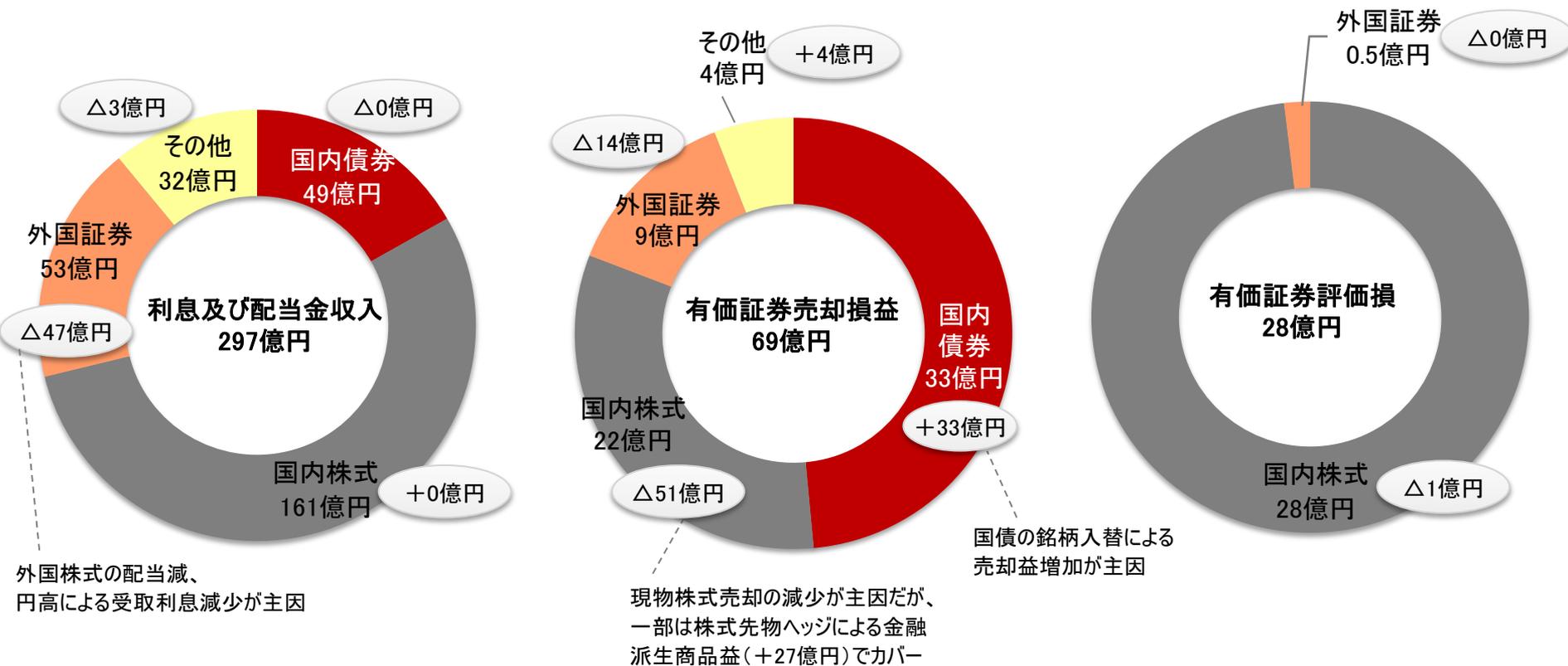
## 資産運用粗利益(損保ジャパン日本興亜単体)

(単位:億円)		2015年度 第1四半期	2016年度 第1四半期	増減							
ネット利息及び配当金収入	①	237	185	△52	対通期業績予想進捗率: 29%						
利息及び配当金収入※1		348	297	△51							
有価証券売却損益※1	②	97	69	△27	売却益を株式先物ヘッジ による利益などでカバー						
(うち国内株式)		73	22	△51							
有価証券評価損※1	③	△26	△28	△2	(参考) 政策株式削減額						
(うち国内株式)		△26	△28	△1							
金融派生商品損益	④	0	48	+47	<table border="1"> <tr> <td>現物※2</td> <td>26億円</td> </tr> <tr> <td>先物※3</td> <td>372億円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>399億円</td> </tr> </table>	現物※2	26億円	先物※3	372億円	合計	399億円
現物※2	26億円										
先物※3	372億円										
合計	399億円										
その他損益	⑤	72	△66	△139							
資産運用粗利益	(①~⑤計)	381	207	△173	円高により外国代理店貸などの 為替差損を認識						

※1 内訳は次ページ参照

# (参考) 資産運用粗利益の内訳

## 利息及び配当金収入・有価証券売却損益・有価証券評価損の内訳(2016年度第1四半期)



2015年度第1四半期対比の増減額

## (参考) 2016年度通期業績予想(損保ジャパン日本興亜)

(単位:億円)	2015年度 (実績)	2016年度 (予想)	増減
正味収入保険料	22,184	21,893	△290 (△1.3%)
(除く自賠責・家計地震)	19,108	18,862	△245 (△1.3%)
正味損害率	63.7%	62.6%	△1.1pt
(除く自賠責・家計地震)	61.1%	59.3%	△1.8pt
EI損害率(除く自賠責・家計地震)	61.6%	59.3%	△2.3pt
正味事業費率	31.6%	32.3%	+0.7pt
(除く自賠責・家計地震)	33.4%	34.1%	+0.7pt
コンバインド・レシオ	95.3%	94.8%	△0.4pt
(除く自賠責・家計地震)	94.5%	93.4%	△1.1pt
保険引受利益	782	865	+82 (+10.6%)
資産運用粗利益	1,085	1,215	+130 (+12.0%)
経常利益	1,780	1,965	+184 (+10.3%)
当期純利益	1,262	1,400	+137 (+10.9%)
(参考) 修正利益			
+) 異常危険準備金繰入額(税引後)	△17	247	+265
+) 価格変動準備金繰入額(税引後)	57	57	+0
-) 有価証券売却損益・評価損(税引後)	264	445	+180
-) 特殊要因(税引後)※	△123	—	+123
修正利益	1,161	1,260	+98 (+8.5%)

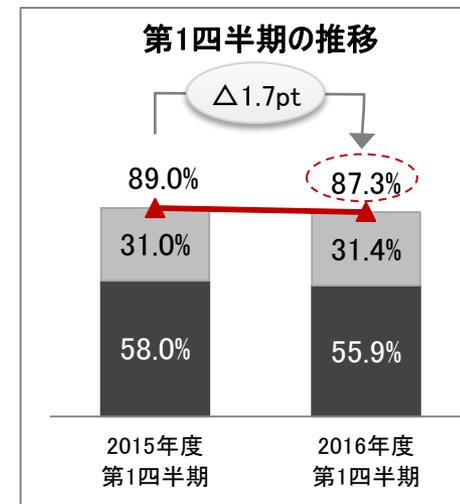
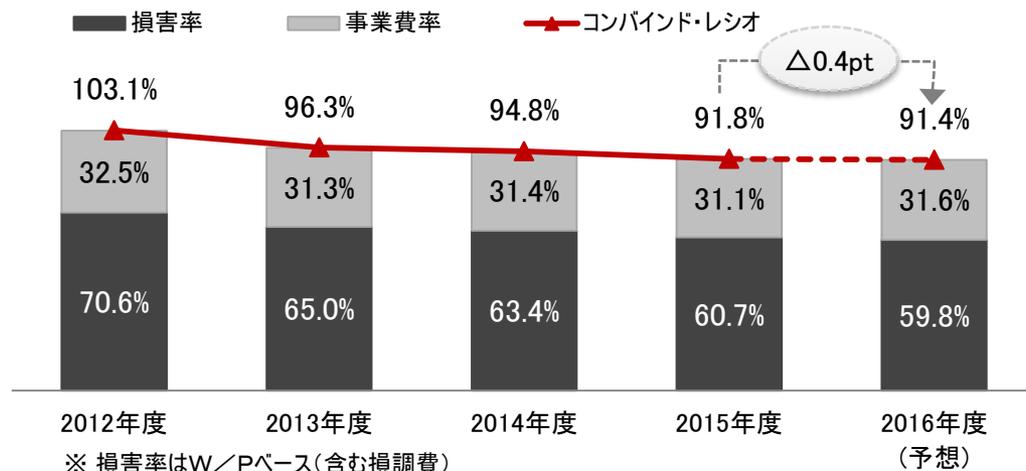
※ 特殊要因は法人税減税影響など

## (参考) 通期業績予想の前提(損保ジャパン日本興亜)

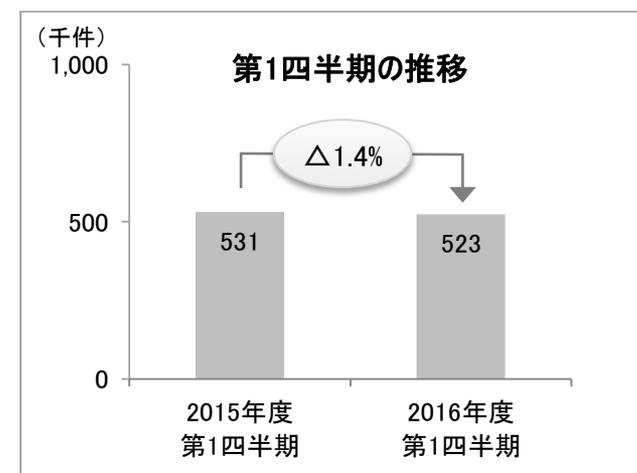
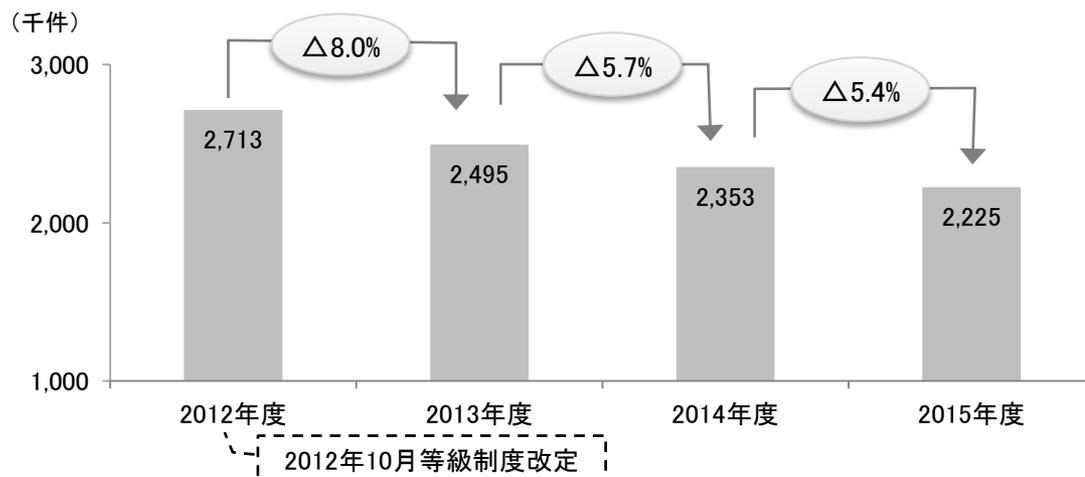
国内自然災害(当年度発生)	430億円
異常危険準備金	345億円の積み増し(ネット)
異常危険準備金繰入率	火災グループ繰入率 火災:14.0%、火災以外:5.0% 自動車グループの繰入率:3.2%
資産運用	<株価> 日経平均:16,758円 <金利> 10年物日本国債:△0.03% <為替> ドル円:112.68円、ユーロ円:127.70円 ※マーケットの前提は2016年3月末の水準を想定
利息及び配当金収入	グロス:1,051億円 ネット:630億円
有価証券キャピタル損益	有価証券売却損益:639億円 有価証券評価損:20億円
価格変動準備金	80億円の繰入れ(ネット)

# (参考) 自動車保険関連の指標

## コンバインド・レシオの推移



## 事故受付件数の推移



※ 発生損害が一定額を超過した自然災害に係る件数を除く

## (参考)国内自然災害

### 国内自然災害(当年度発生)に係る正味支払保険金(除く自賠責・家計地震)

(単位:億円)	2015年度 第1四半期	2016年度 第1四半期	増減
火災	2	40	+37
海上	-	0	+0
傷害	-	0	+0
自動車	0	3	+2
その他	0	2	+2
合計	3	46	+43

主な自然災害に対する正味支払保険金

- ・低気圧による風災(2016年4月):27億円
- ・熊本地震(2016年4月):3億円



通期業績予想の前提  
発生損害額 430億円

※ 第1四半期決算では支払備金を簡便法で算出しているため、国内自然災害に係る発生損害額を集計していないが、熊本地震(2016年4月発生)に対して個別に発生保険金51億円を認識

## (参考) 責任準備金・支払備金

## 責任準備金・支払備金(2016年度第1四半期末)

(単位:億円)	普通責任準備金※ <sup>1</sup>		異常危険準備金		支払備金※ <sup>2</sup>	
	残高	積増額	残高	積増額	残高	積増額
火災※ <sup>3</sup>	7,566	△207	1,788	+12	1,182	△57
海上	170	△21	472	+2	300	△0
傷害	1,312	+92	723	+17	690	+5
自動車	3,156	+76	721	+88	4,156	+101
自賠責※ <sup>3</sup>	4,086	△67	—	—	890	—
その他	3,243	+158	1,936	+39	1,967	+9
合計	19,536	+31	5,643	+159	9,188	+58
合計(除く自賠責・家計地震)	15,367	+170	5,643	+159	8,223	△15

	残高	積増額
長期性資産※ <sup>4</sup>	15,074	△68

※<sup>1</sup> 積立保険以外に係る払戻積立金を含む

※<sup>2</sup> 第1四半期では簡便法を適用

※<sup>3</sup> 地震保険および自賠責保険に係る責任準備金は普通責任準備金に含む

※<sup>4</sup> 払戻積立金と契約者配当金として積み立てられている積立保険の収入積立保険料とその運用益の累積残

## 業績概況(ひまわり生命)

◆ 保有契約は継続的に拡大、当期純利益は20億円と業績予想(65億円)に対して順調

(単位:億円)	2015年度 第1四半期	2016年度 第1四半期	増減		2016年度 (予想)
新契約年換算保険料	100	96	△3	(△4.0%)	405
保険料等収入	927	982	+54	(+5.9%)	4,084
(除く一時払保険料)	912	982	+70	(+7.7%)	4,084
資産運用損益(一般勘定)	99	104	+5	(+5.4%)	430
経常利益	65	44	△20	(△31.3%)	148
当期純利益	35	20	△15	(△42.9%)	65

(単位:億円)	2015年度末	2016年度 第1四半期末	増減
保有契約高	216,421	217,363	+941(+0.4%)
保有契約年換算保険料	3,328	3,360	+32(+1.0%)

内訳

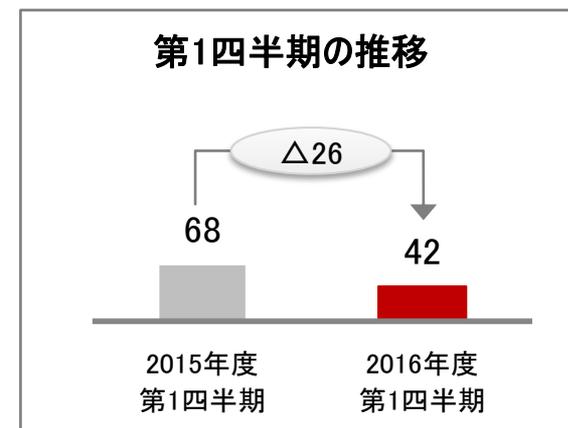
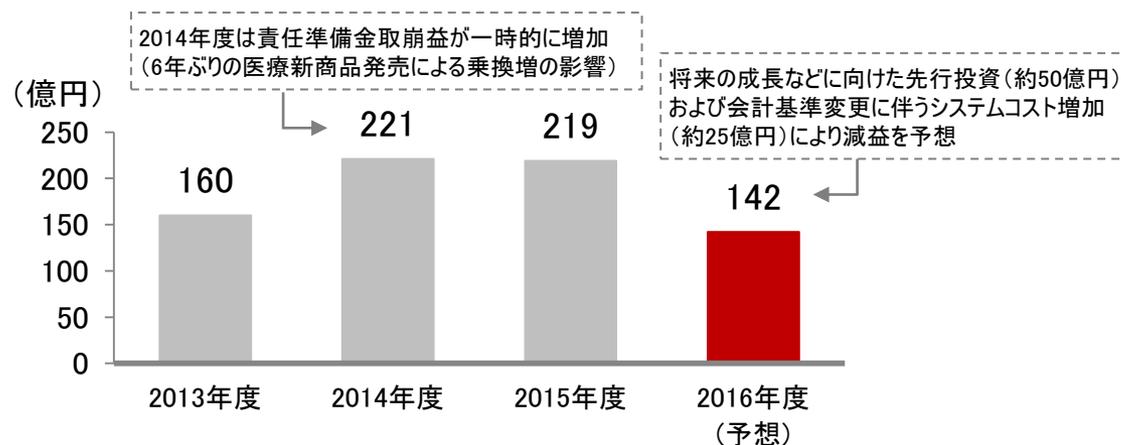
増減	
保障性	+18
貯蓄性	+13
合計	+32

※ 個人保険と個人年金保険の合計

# 会計利益の推移

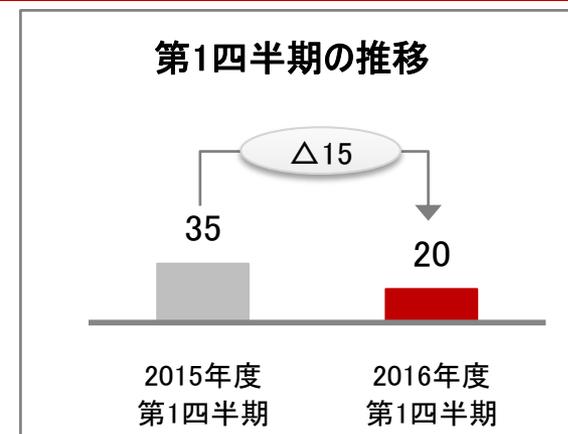
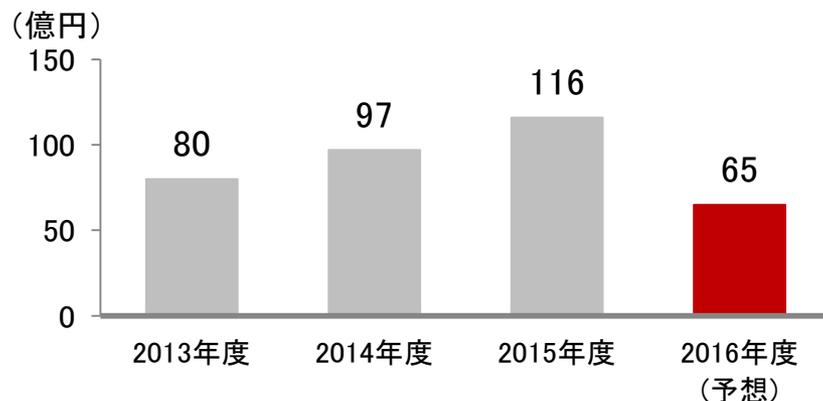
## ◆ 第1四半期は概ね計画どおり進捗

### 基礎利益※



※ 経常利益から有価証券の売却損益などのキャピタル損益と危険準備金繰入などの臨時損益を控除したもので、一般事業会社の営業利益や銀行の業務純益に近い

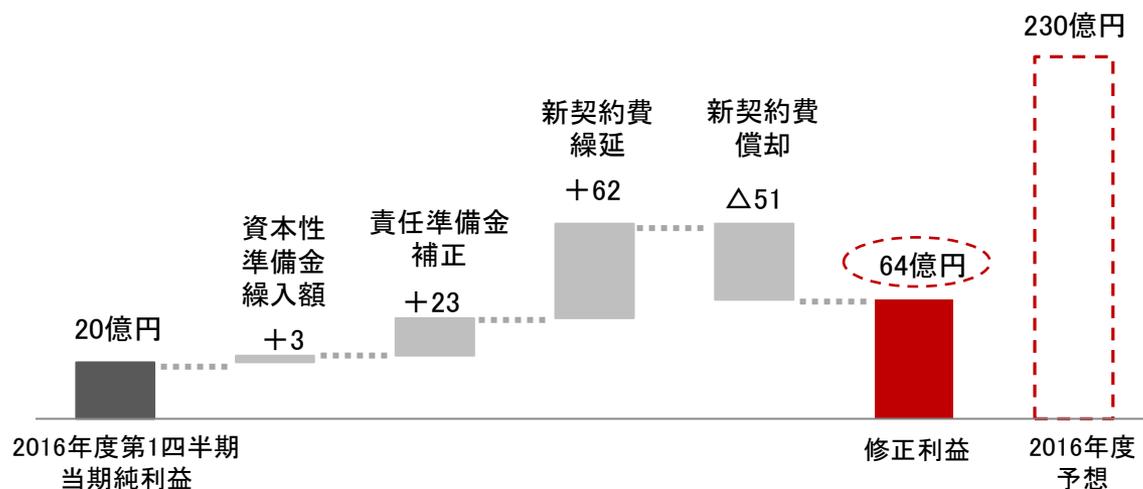
### 当期純利益



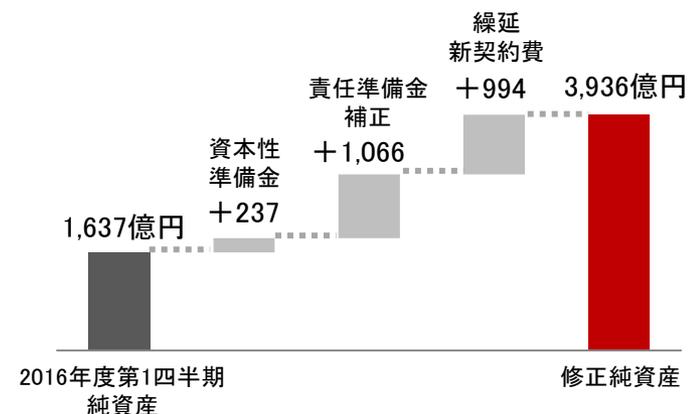
# 修正利益・修正純資産(国内生保事業)

◆ 修正利益(国内生保事業)の通期業績予想(230億円)に対する進捗率は28%

## 当期純利益から修正利益へのコンバージョン



## (参考)修正純資産



(参考) 修正利益 = 当期純利益 + 資本性準備金繰入額<sup>※1</sup>  
 + 責任準備金補正<sup>※2</sup>  
 + 新契約費繰延<sup>※3</sup>  
 - 新契約費償却<sup>※3</sup>

(参考) 修正純資産 = 純資産 + 資本性準備金<sup>※1</sup>  
 + 責任準備金補正<sup>※2</sup>  
 + 繰延新契約費未償却分<sup>※3</sup>

※1 危険準備金、価格変動準備金(税引後)

※2 保守的に計算している責任準備金を保険料計算に用いる基礎率により再計算(税引後)

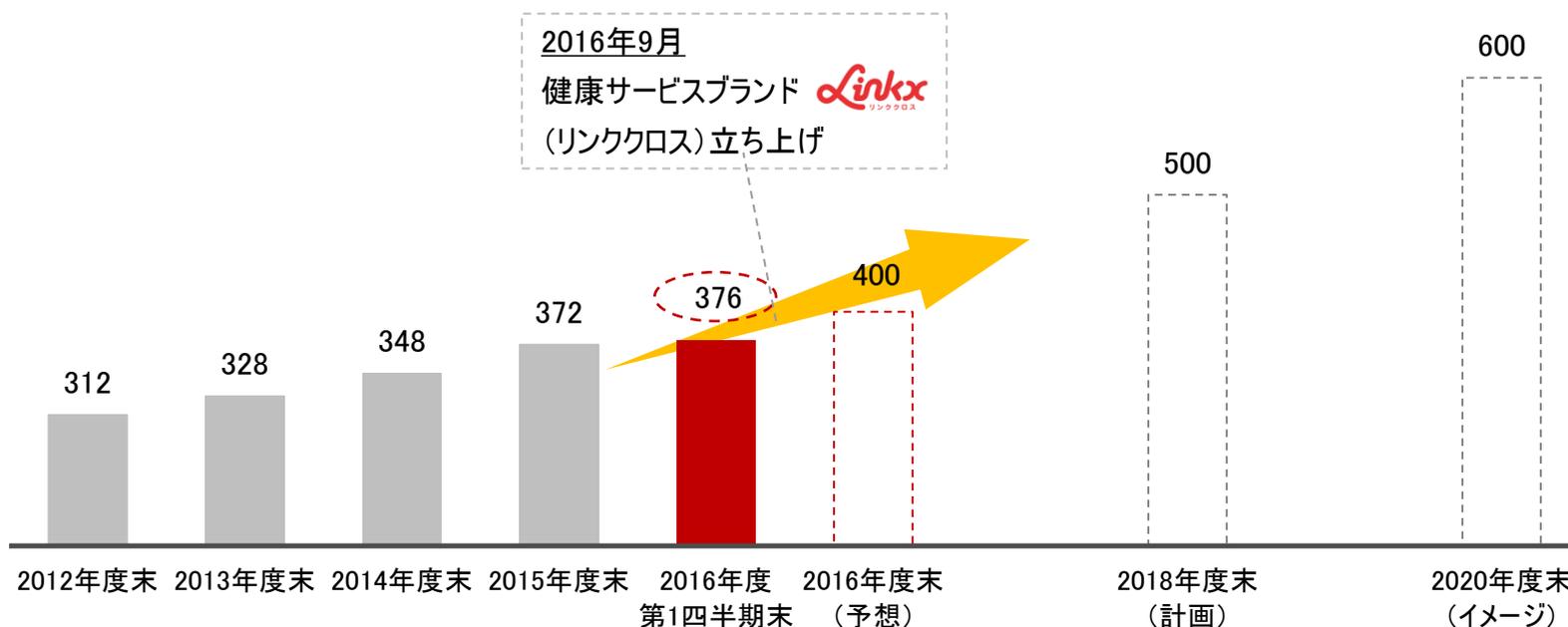
※3 契約初年度に発生する募集手数料等の新契約費を10年間で償却(税引後)

## (参考) 保有契約件数

保障性商品中心に保有契約件数は引き続き着実に増加、リンククロス立ち上げなどを機にさらなる拡大を目指す

### ひまわり生命の保有契約件数

(万件)



※リンククロス **Linkx** とは

(コンセプト) お客さまに心地よく、楽しく、健康を維持していただくこと

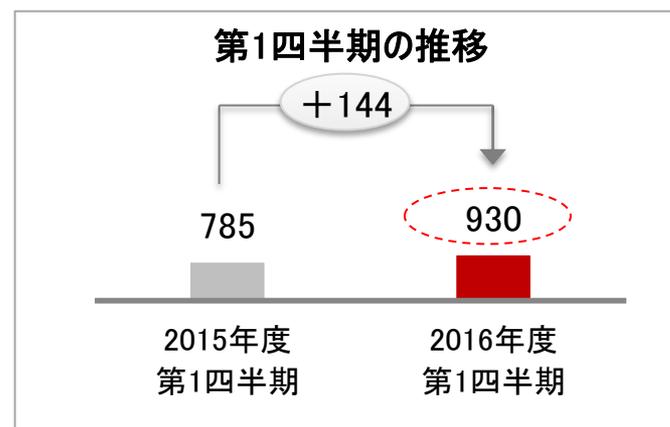
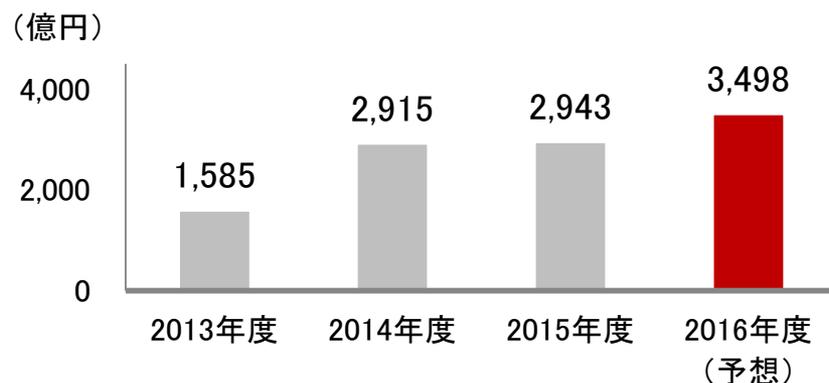
(今後の展開) ・健康を軸とした革新的商品の投入

・他業種との提携も視野に、アプリを中心とした健康関連サービスを展開

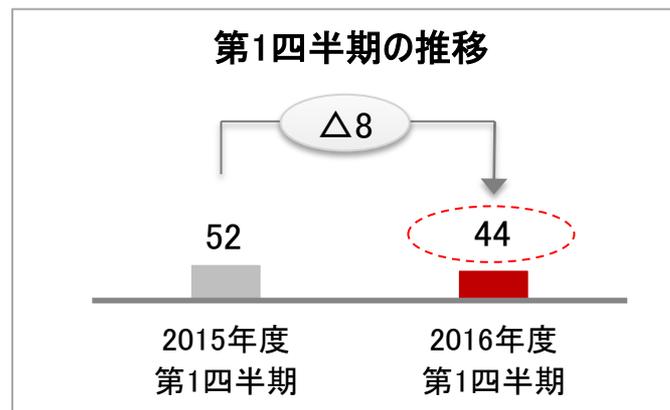
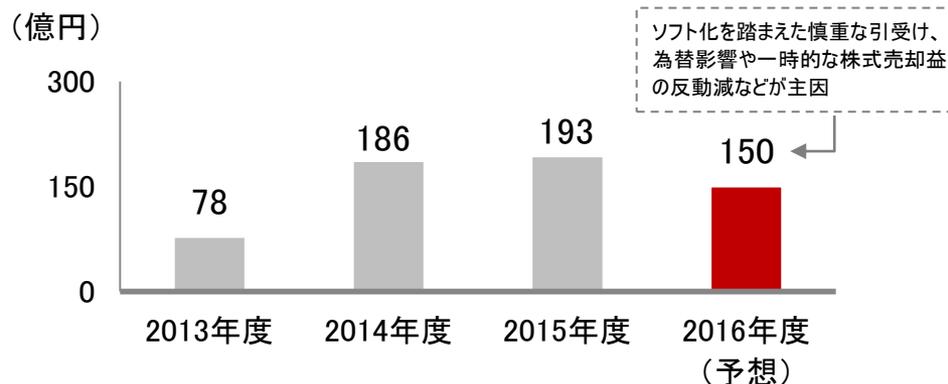
## 業績概況(収入保険料、当期純利益)

◆ トップライン、ボトムラインとも計画どおり

## 収入保険料



## 当期純利益

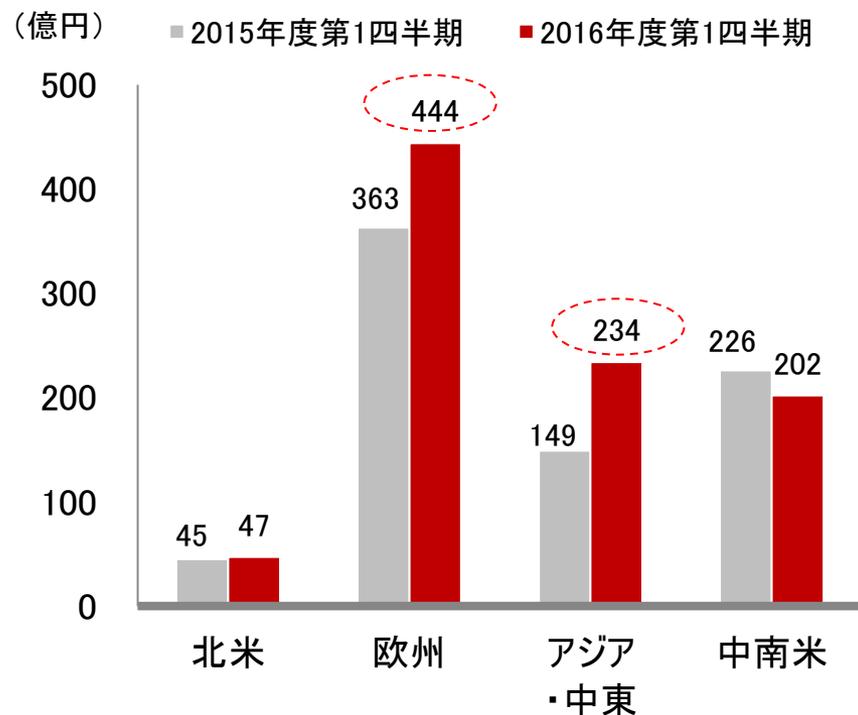


※収入保険料は、持分割合を反映した数値を記載しており、連結財務諸表とは基準が異なる。当期純利益についても、持分割合の反映などの調整を行っている。  
また、2016年度から非連結子会社であるSompoインドネシア、SJNKタイ、PGAソンプ(フィリピン)、ユナイテッドインシュアランス(ベトナム)、Sompoメキシコの数値を合算している(以下同様)。

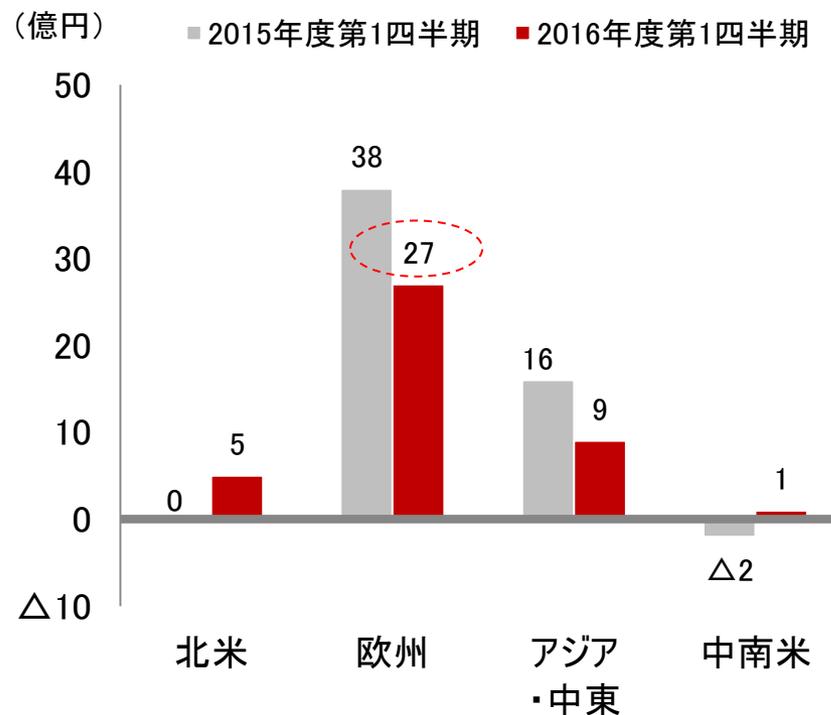
# 地域別業績

◆ トップラインは欧州とアジア・中東で拡大、利益貢献は欧州が引き続き最大

## 収入保険料(地域別)



## 当期純利益(地域別)



## (参考)グループ会社別業績

(単位:億円)		収入保険料			当期純利益			ポイント	(参考)為替レート	
		2016年度 第1四半期	増減	2016年度 (予想)	2016年度 第1四半期	増減	2016年度 (予想)		2016年度 第1四半期※2	
北米	SJアメリカ	47	+2	227	5	+5	17	損害率が良好に推移、 トップライン、ボトムラインとも順調に進捗	112.68 円/米ドル	(△6.2%)
欧州	SJNKヨーロッパ	△0	△21	13	3	+6	0	出再カバーを拡充、 損害率が改善しボトムラインは順調	161.92 円/ポンド	(△9.1%)
	Sompoキャノピアス (英国)	444	+102	1,477	24	△17	61	損保ジャパン日本興亜からの契約移管 (約61億円)あり、大口ロスもなくボトムライン は計画対比順調	112.68 円/米ドル	(△6.2%)
アジア・ 中東	SJシゴルタ (トルコ)	140	+85	359	6	+0	20	自動車強制保険などが大幅増収、 ボトムラインも順調	39.76 円/リラ	(△13.9%)
	Sompo シンガポール	17	△9	73	1	△1	6	損害率は良好に推移	83.31 円/SGドル	(△4.6%)
	ベルジャヤソンプ (マレーシア)	32	+2	129	1	△0	10	事業費率が若干上昇したものの 概ね計画どおり	28.62 円/リンギット	(△11.6%)
	SJNK中国 NK中国	15	△3	66	△0	△2	0	損害率が若干悪化	17.39 円/人民元	(△10.2%)
	SJNK香港	9	△1	36	0	△2	4	台湾地震などの影響はあるが、 今後業績回復を見込む	14.53 円/香港ドル	(△6.3%)
	ユニバーサルソンプ (インド)	6	△1	35	△0	△1	1	為替影響を除けば概ね計画どおり	1.53 円/ルピー	(△21.1%)
中南米	Sompoセグロス (ブラジル)	200	△25	981	0	+3	18	為替影響はあるものの、損害率は良好	31.31 円/レアル	(△15.9%)
上記以外(非連結)※1		15	—	97	1	—	8	—	—	—
合計		930	+144	3,498	44	△8	150	—	—	—

※1 Sompoインドネシア、SJNKタイ、PGAソンプ(フィリピン)、ユナイテッドインシュアランス(ベトナム)、Sompoメキシコの合計

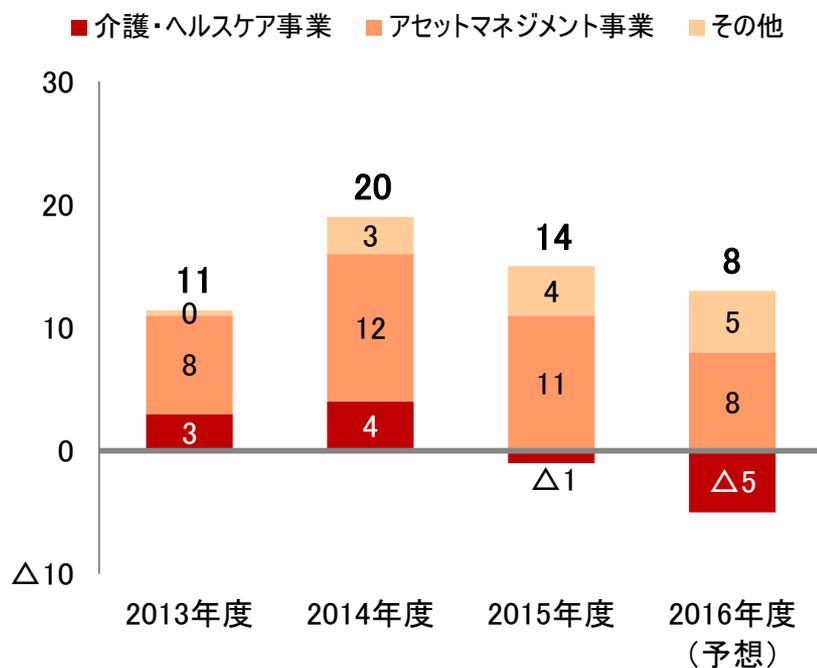
※2 2016年度第1四半期は2016年3月末の為替を適用(増減は2015年3月末為替との比較)

## 業績概況(介護・ヘルスケア事業等)

## ◆ 介護事業の内部管理態勢強化などに注力

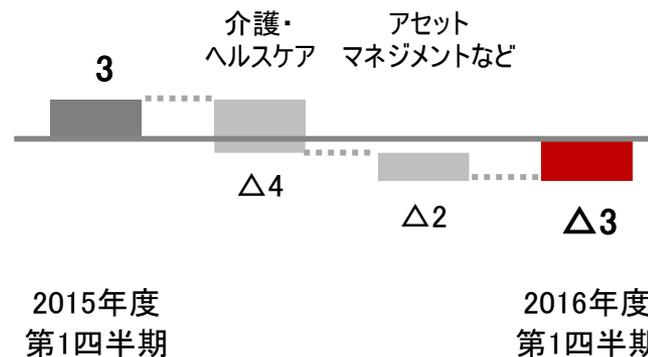
## 修正利益の推移

(億円)



## 第1四半期の推移

- ・ガバナンスや内部管理態勢の強化に注力し、介護事業の態勢整備を進める
- ・先行指標となる問い合わせ件数や介護施設見学者数は昨年度下期(平均)の1.5倍程度



※ 介護・ヘルスケア事業はSOMPOケアメッセージ、SOMPOケアネクスト、シダー(非連結)、SOMPOリスクアマネジメントの合計、その他はプライムアシスタンスなどの戦略事業

---

## 1. 業績動向

---

## 2. 事業別概況

---

2-1. 国内損保事業

2-2. 国内生保事業

2-3. 海外保険事業

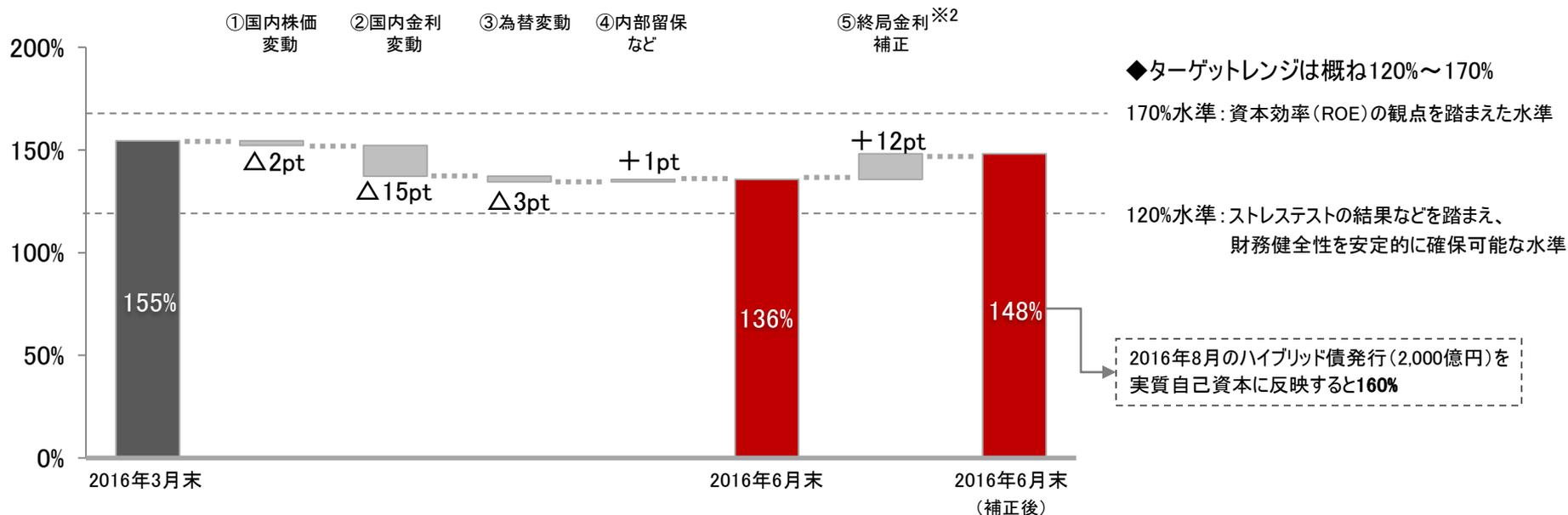
2-4. 介護・ヘルスケア事業等

## 3. ERM・資産運用

# 財務健全性(内部ソルベンシー比率)

◆ 金融市場に変動があったものの、強固な財務基盤を維持

## 内部ソルベンシー比率※1の推移



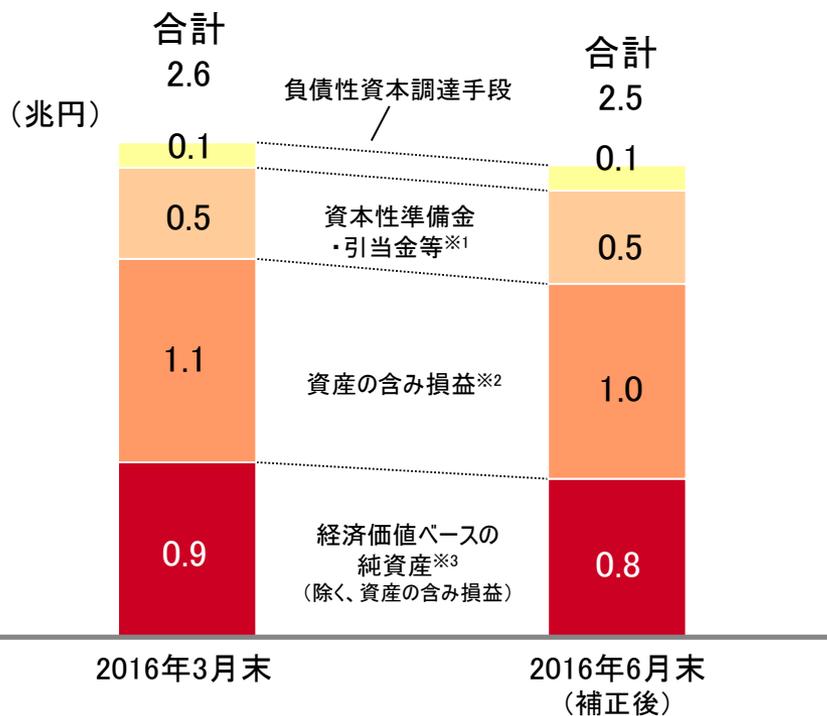
※1 補正後はソルベンシー II に準拠した算出方法かつ運用はさらに保守的(リスク量の測定に99.95%VaRを使用)

※2 終局金利(UFR)とは、最終的に一定水準に向けて収束するとの前提に基づいて設定されるフォワードレート  
ソルベンシー II に準拠し、30年目から40年間で3.2%に収束する前提

(参考)市場環境	2016年3月末	2016年6月末	(3月末比)
国内株価(日経平均株価)	16,758円	15,575円	(Δ7.1%)
国内金利(30年物国債利回り)	0.56%	0.14%	(Δ42bp)
為替(米ドル円レート)	112.68円	102.91円	(Δ8.7%)

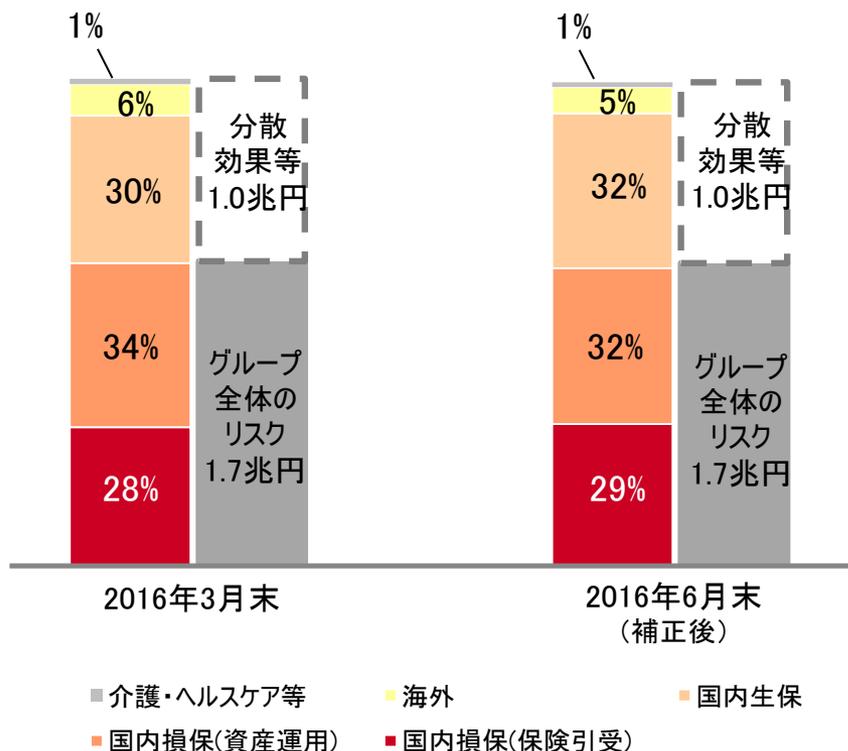
# (参考)実質自己資本・リスク量のブレイクダウン

## 実質自己資本の推移



- ※1 価格変動準備金、異常危険準備金など(税引後)
- ※2 時価評価しない資産(責任準備金対応債券など)を含めた有価証券等の含み損益
- ※3 単体BS純資産合計額に生損保の保有契約価値などを加算

## 事業毎のリスク量※4推移

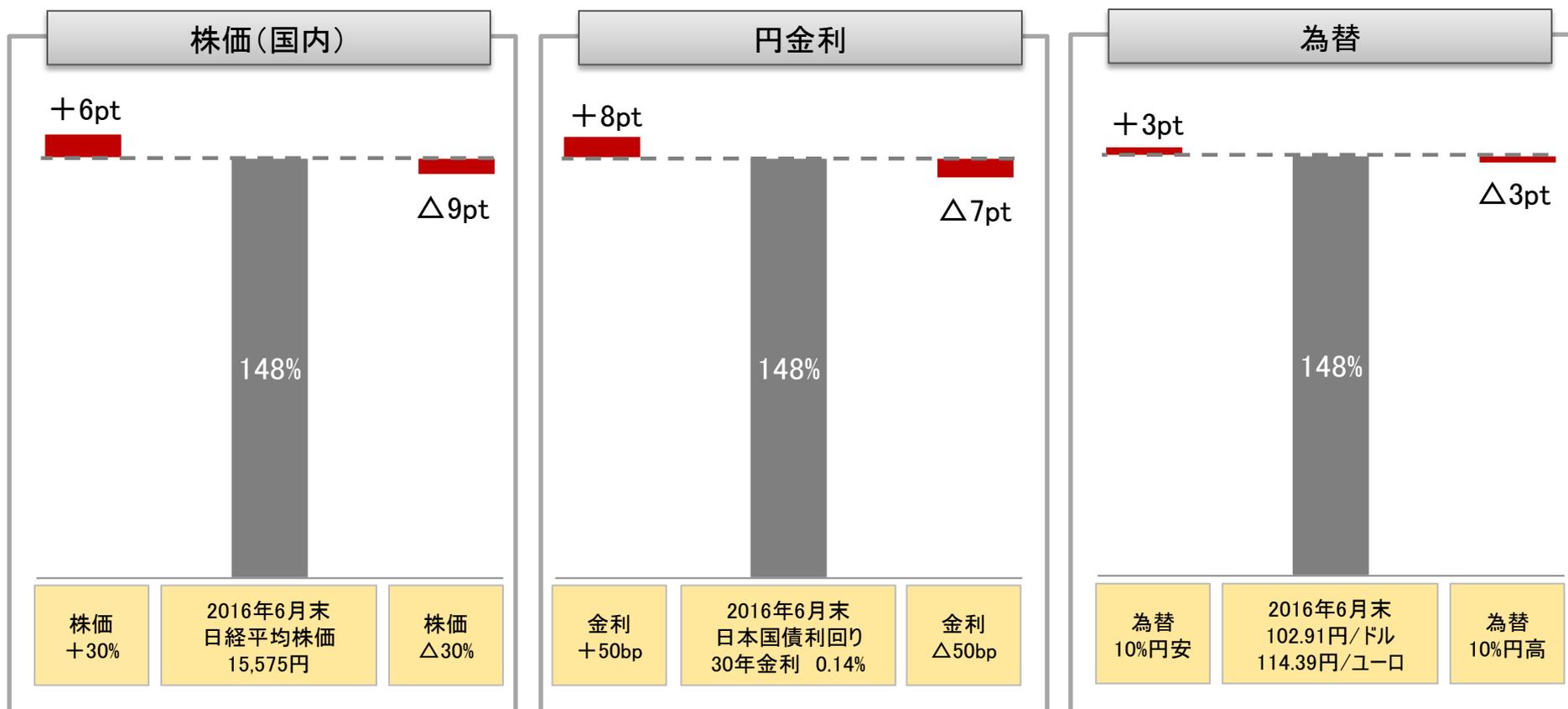


- ※4 リスク量は保有期間1年、99.95%VaR(AA格に相当する信頼水準)で計測
  - ・事業毎のリスク量: 事業間のリスク分散効果控除前、税引前ベース
  - ・グループ全体のリスク: 事業毎のリスク量合計から、分散効果や税影響を控除

# (参考) 市場変動に対する感応度

## 内部ソルベンシー比率の市場感応度

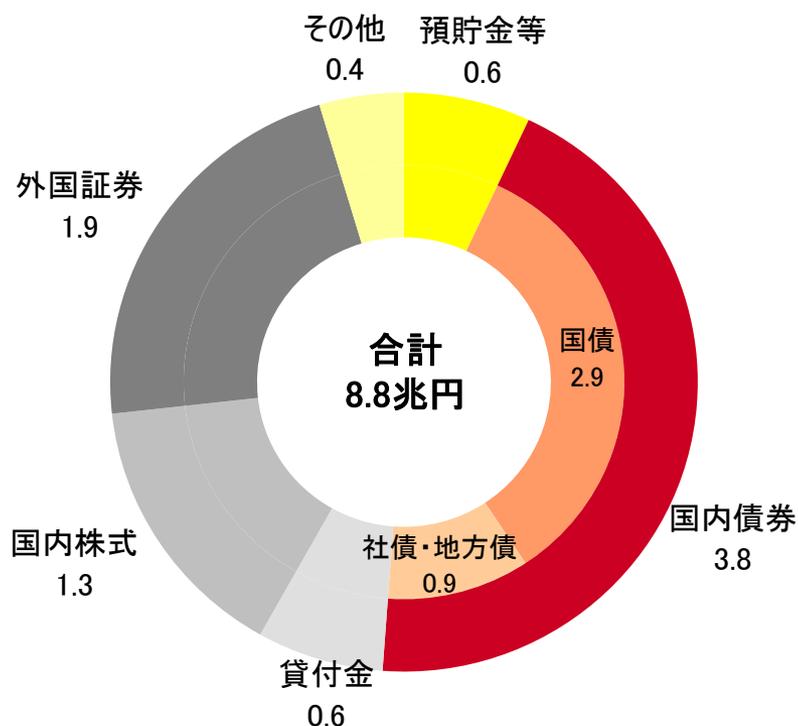
■ : 内部ソルベンシー比率    ■ : 変化



# 資産ポートフォリオ(グループベース)

◆ 負債特性、流動性に留意したALMを徹底、国内株式は着実に削減する方針に変更なし

## 資産運用額(2016年6月末 グループ連結ベース)



## 会社別資産運用額(億円)

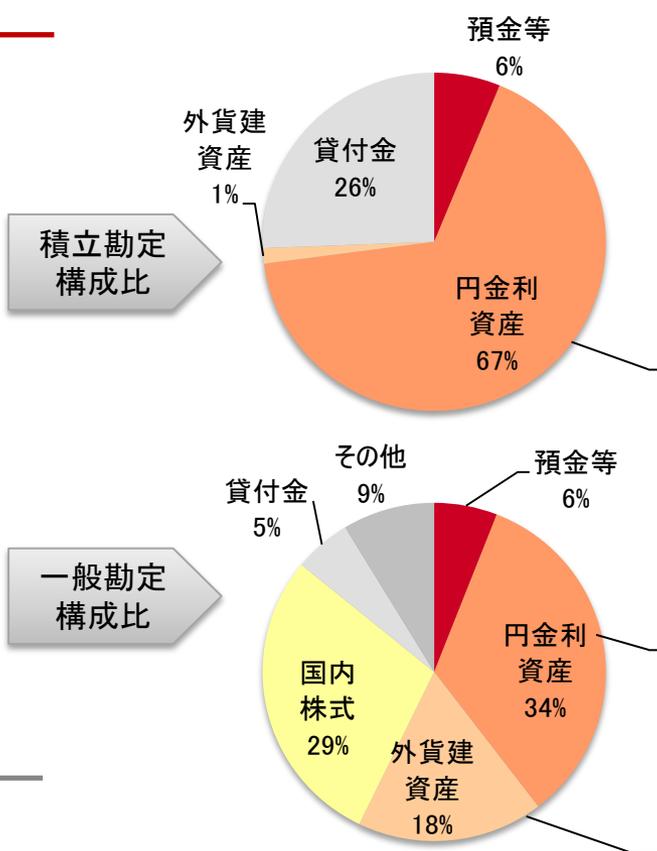
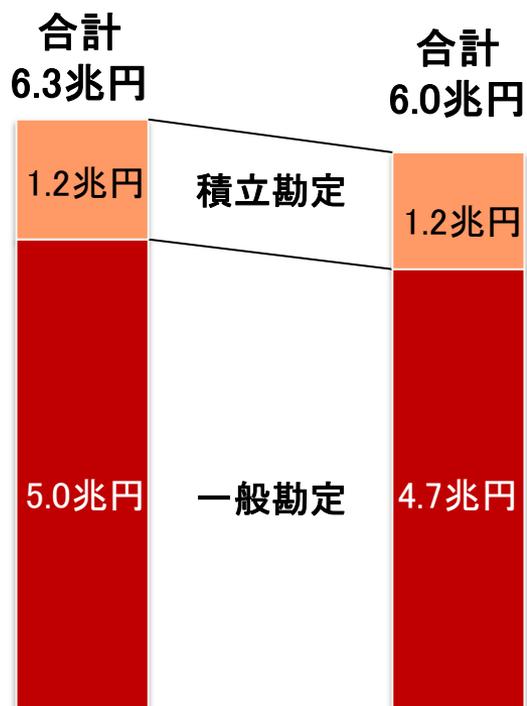
	資産運用額	構成比
損保ジャパン日本興亜	56,790	64.2%
ひまわり生命	24,249	27.4%
海外グループ会社	6,177	7.0%
セゾン自動車火災	419	0.5%
そんぼ24	216	0.2%
国内その他	586	0.7%
<b>合計</b>	<b>88,439</b>	<b>100%</b>

※ “その他”は土地・建物、非連結子会社株式など

# 資産ポートフォリオ(損保ジャパン日本興亜)

- ◆ 一般勘定は分散投資、積立勘定はALMを基本とするポートフォリオマネジメントを継続
- ◆ 金利低下などを踏まえ、ヘッジ外債のウェイトを引き上げるほか運用手法の多様化を目指す

## 資産運用額(損保ジャパン日本興亜単体)



### 積立勘定デュレーション

	2016年3月末	2016年6月末
資産	4.7年	4.8年
負債	7.2年	6.8年

	国債	社債・地方債	ヘッジ外債等
内訳	30%	31%	6%

	国債	社債・地方債	ヘッジ外債等
内訳	17%	3%	14%

	外債	ファンド等	子会社株式等
内訳	4%	6%	7%

# 資産ポートフォリオ(ひまわり生命)

- ◆ 円金利資産を中心としたALM重視のポートフォリオを構築
- ◆ 金利低下の常態化なども想定し、外貨建資産への資産配分を継続

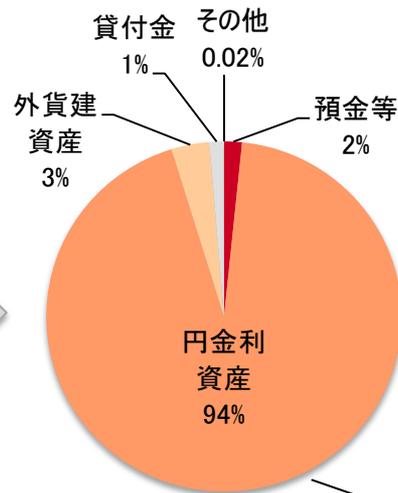
## 資産運用額(ひまわり生命単体)



2016年3月末

2016年6月末

一般勘定  
構成比



### 一般勘定デュレーション

	2016年 3月末	2016年 6月末
資産	14年	14年
負債	23年	22年

	国債	社債・ 地方債	ヘッジ 外債等
内訳	74%	13%	6%

(参考) 特別勘定の残高(主に国内株式・債券で運用)

2016年3月末	2016年6月末
204億円	194億円

## 将来予想に関する記述について

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

### 【お問い合わせ先】



SOMPO ホールディングス

損保ジャパン日本興亜ホールディングス株式会社  
経営企画部 IRチーム

電話番号 : 03-3349-3913

Fax : 03-3349-6545

E-Mail : [ir@sompo-hd.com](mailto:ir@sompo-hd.com)

Web : <http://www.sompo-hd.com/>